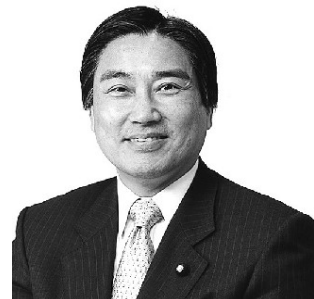


辻泰弘 国会ニュース

つじ やす ひろ Kokkai News 2009年7月14日 NO.82

臓器移植法改正が参院で成立！ 厚生労働委員長として中間報告！！



7月13日、臓器移植法改正が参議院本会議で成立しました。同改正は、本人の生前の意思が不明でも家族の同意での臓器提供を可能とし、現行法では認められていなかった15歳未満の子供の臓器提供に道をひらくもの。6月30日から厚生労働委員会で審議開始。

7月2日、6日、7日に、延べ20名の参考人から意見聴取・質疑。8日には、東京女子医大病院、東邦大学医療センター大森病院を訪問。移植医療の現場を視察。その他質疑を経て、与野党合意の下、7月10日、私、辻泰弘が厚生労働委員長として委員会審査を中間報告。2日の間において本会議採決。賛成138、反対82で可決・成立。私、辻泰弘は修正案に賛成。否決された後、原案に賛成。以下は本会議での中間報告抜粋。（同報告の詳細はホームページ掲載）

「臓器の移植に関する法律の一部を改正する法律案」は、移植のための臓器摘出等に係る要件について、本人の生前の臓器の提供等の意思が不明の場合に、遺族等が書面により承諾した場合を加える等の措置を講じようとするものであります。・・・（中略）・・・

同案への、第6条第2項の「脳死した者の身体」の定義から「その身体から移植術に使用されるための臓器が摘出されることとなる者であって」の文言削除の理由を問う質疑に対し、脳死は人の死であることについて概ね社会的に受容されているとする近年の調査等を踏まえ、脳死は一般に人の死であるとの考え方によりふさわしい表現となるよう文言を削除したとの答弁・・・。

7月9日、改正案に対する修正案が提出されました。その主な内容は、

第6条第2項の規定からの文言を削除する改正を行わない、被虐待児が死亡した場合に当該児童から臓器が提供されないようにするための検討規定は公布の日から施行する、児童の脳死判定については、児童の身体の特性に関する医学的知見を十分に踏まえる、法律の運用に当たって、脳死判定・臓器摘出に関する児童等の思いを尊重する家族の心情などが十分に配慮されるようにする、臓器の摘出が遺族に及ぼす心理的影響の緩和のための支援について検討する、

脳死の判定、臓器の摘出の適正性等について事後的な検証等を行う、法施行3年後を目途に、新法の全般について検討を加える、等であります。

修正案に対し、修正案によって改正案の何が変わるのか、との質疑に対しては、臓器移植に関する修正案の考え方の基本は改正案と共通しているが、脳死を一般に人の死とすることについては、国民的コンセンサスが得られていない状況の下で、文言の削除により、誤解が生じないようにするものであるとの答弁がありました。・・・（中略）・・・

以上が、厚生労働委員会における昨日までの審査の経過、審議の概要でございます。

本日、麻生総理問責決議案可決。いよいよ衆議院の解散・総選挙。政権交代にお力を！！